

総合診療科での実習で感じたこと

私は 1 か月間、総合診療科での実習に参加させていただきました。この実習を通して、大きく 2 つのことを感じました

1 つ目は、診断のつかない患者さんにとって総合診療科が必要であるということです。今回の実習でも原因不明の関節痛や浮腫み、息切れなど、鑑別が多岐にわたり診断がついていない患者さんが多くおられました。患者さんにとって原因が分からないという不安は大きく、どこの診療科に行けばいいかも分かりません。その点で総合診療科は問診と身体診察を通して、検査をオーダーし、原因の究明に貢献しており、なくてはならない診療科だと感じました。

2 つ目は、患者さんとの丁寧なコミュニケーションの重要性です。検査だけでは分からない情報が、問診の中で見つかることは大きく、疾患の特定につながりうるということを今回の実習で強く感じました。そして自分の問診にも活かしたいと感じました。